

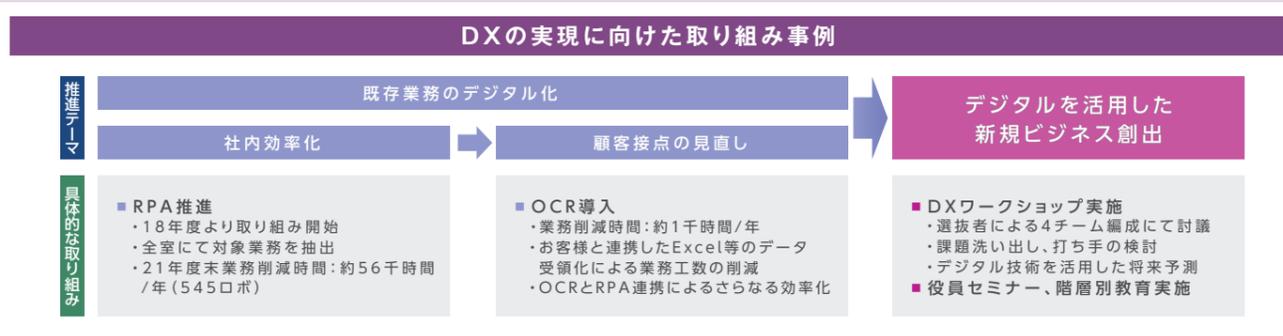
商社事業

(JFE商事株式会社)



JFE商事グループでは、第7次中期経営計画において、10年後を見据えたDX戦略を推進しています。2021年度は、DXの基礎知識習得を目的とした全社的なeラーニングとアンケートを実施しました。2022年度は、役員向けセミナーや階層別研修、さらに組織横断的なDXワークショップを開催し、DX推進意識の浸透とテーマの具体化を図っています。

JFE商事グループを取り巻く将来の環境変化を想定し、将来の「ありたい姿」を描きながら、「D」（デジタル技術）を活用した「X」（変革）を目指し、サービスの変革と、各方面のステークホルダーに提供する価値の向上に引き続き取り組んでいきます。



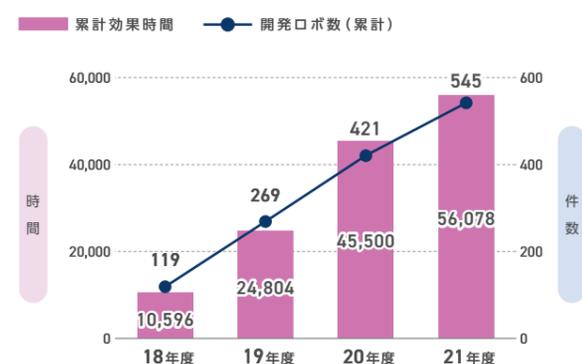
01 デジタルを活用した業務効率化への取り組み JFE商事のRPAとOCRの取り組み

2018年度より着手したRPAロボ開発は2021年度末に全社ニーズの抽出を完了し、累計開発数は545ロボ、削減時間は約56千時間/年に到達しました。

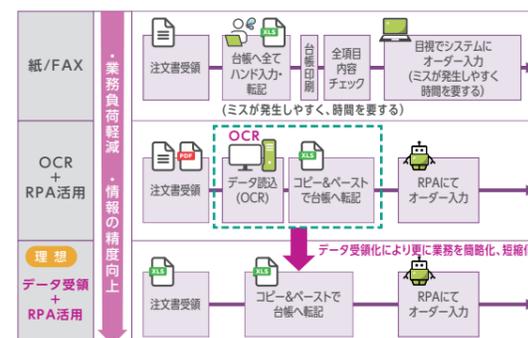
また、手書き文書をデータ化するAI-OCR[®]の採用も順調に推移しています。22年9月末には109帳票に採用され、約1千時間/年の効果時間を創出しています。足元では、お客様からの手書き文書をデータ(Excel書式等)にて受領する活動も推進しています。OCRとRPAロボとの連携事例も増え、さらなる業務効率化を推進しています。

※OCR (Optical Character Recognition/Reader, 光学式文字読取装置)

RPAロボ開発推移 (18年度～21年度)



OCR→データ受領化によるさらなる業務効率化を推進



02 ビジネス変革・創出の取り組み JFE商事における「DXワークショップ」の開催

DX推進事務局(DXワーキンググループ)が中核となり、「既存ビジネス変革」と「デジタルを活用した新規ビジネス創出」を目指して、各部門代表者による「DXワークショップ」を開催し、部門横断的な集中討議を行いました。

DXワークショップ概要(22年6月～9月で実施)

| | |
|------|--|
| 目的 | 当社のありたい姿を実現するためのDX企画案を、部門横断的に議論し、策定する。 |
| メンバー | 各営業本部やグループ会社によるDX代表者:15名 プロジェクト事務局:5名 コンサルティング会社:4名 |
| 方法 | DX導入支援の実績が豊富な外部コンサルタントを起用し、全7回にわたる集中討議プログラムを実施 |

4つのチームを構成し、各チームが当社の目指すべきDXについて議論を行いました。



チーム討議の様子

DXワークショップのプログラム内容

| | A. 前提理解とありたい姿の定義 | B. 課題の整理 | C. 打ち手案の具体化 | D. 実行Stepの立案 | | | |
|----------|-----------------------------------|--|--|--------------------------------|--|-----------------------------------|---------------------------------|
| 検討ステップ | #1 事業前提の整理(内部) | #2 事業前提の整理(外部)とありたい姿の定義 | #3 課題の洗い出し | #4 あるべき姿と優先課題の再整理 | #5 打ち手案の具体化 | #6 打ち手の優先順位付け、今後の計画策定 | #7 検討の取りまとめ |
| 検討内容 | a. 自社ビジネスの理解 b. 自社の提供価値の整理 | a. 競合の強みの理解 b. 顧客・市場の未来洞察 c. ありたい姿の定義 | a. ありたい姿と現状のギャップ理解 b. ギャップの要素分解による課題化 | a. 課題の分類分け b. 課題の重要性、共通性認識 | a. 打ち手の案出し b. 打ち手の効果試算 c. 打ち手の難易度評価 | a. ソリューション調査 b. ソリューションの優先順位付け | a. 実現に向けたSTEP定義 b. 積み残し論点の整理 |
| 想定アウトプット | a. J商の強み一覧 b. サプライチェーンにおける提供価値 | a. 競合の強み一覧 b. Pest分析結果、未来洞察結果 c. ありたい姿 | a. 課題一覧 b. カスタマージャーニーマップ | a. 課題の分類マップ b. 課題とありたい姿の関係性 | a. 打ち手のアイデア一覧 b. 各打ち手の効果一覧 c. 実現性マップ | a. ソリューション一覧 b. 優先順位マップ | a. 実現ロードマップ b. 最終報告資料 |
| 活用手法 | サプライチェーン分析 | Pest分析、未来洞察 | カスタマージャーニー | 課題マッピング | アイディエーション | 評価マッピング | — |

03 組織横断的な取り組み JFE商事の「新しい働き方改革」

JFE商事では、コロナ禍をきっかけに、各部門の組織横断的な連携のもと、「新しい働き方改革」に着手。契約、支払・回収、立替精算、一般申請といった4つのテーマに対し、分科会を設置。多様性のある働き方に対応した業務の見直し、効率化に取り組んでいます。

新しい働き方改革(概要)

| | |
|----|---|
| 狙い | 多様な働き方に対応する仕組み作りとシステム対応 |
| 対象 | 契約、支払・回収、立替精算、一般申請 |
| 内容 | ・各部門の連携にて21年度より継続的な取り組みを実施。 ・財務経理、営業会計、鉄鋼総括、原資総括、法務、審査、広報、総務が連携 |
| 実施 | ①契約 ドキュサイン全社利用開始(22年5月～) ②支払・回収 ・申請書の電子決裁化完了(22年7月) ・SAP連携に開発着手(23年4月運用開始) ③立替精算 運用開始(23年10月)に向け準備中 ④一般申請 ・法務、広報、鉄鋼総括(23年2月運用開始) ・財務経理、営業会計、審査、原資総括(23年4月運用開始) ・総務(要件確認中) |

例) 支払い業務の電子決裁化(22年7月～)

